



第1131号

令和7年10月15日発行

目次	
信濃教育会総集会報告.....2～3	「教育研究論文・教育実践賞」募集のお知らせ...8
臨時総会報告.....4～5	プチッと研修.....8
日本連合教育会研究大会 報告.....6	11・12月の研修ガイド.....8
教育研究団体との懇談会.....7	世界の学校88.....9
教育研究団体補助金.....7	信州“教育の日”ご案内.....10
	100年館の絵.....10

第139回信濃教育会総集会佐久大会



令和7年7月5日（土）「信州教育の創造～未来を拓く職能の向上～」のテーマのもと、小諸市文化センターにおいて、第139回信濃教育会総集会佐久大会が開催されました。

今年度も、MCを務めた若手会員の軽妙なやり取りと会場への問いかけにより、参加者は郡市や世代を超えて、信濃教育会会員としての思いを共有することができました。また、パネルディスカッション、講演を通して、互いに日々の授業を見つめ直すこともできました。

こうして学びの多い総集会を開催できたのも、開催地である佐久教育会の皆様のおかげです。改めて、感謝を申し上げます。ありがとうございました。

[参加者の感想]

○今回は本校の初任者と一緒に参加しました。信濃教育会の先人たちが残してきた思い、どうして今もなおこうした総集会が続いているのか、研修をすることが私たちの責務であることなど、行きも帰りも車の中で語り合いながら参加しました。岩川先生のご講演もすごく心に響いたようで、帰りの車の中では「今すぐにでも、できればこのまま子どもたちの前に、いや横に立って教育活動をしたい」と興奮冷めやらぬ状況で語ってくれました。

○柔らかい雰囲気です会を進行してくださった植木先生、荒井先生に感謝です。パネルディスカッションもそれぞれの先生方の優れた実践をもとに議論され、その中で自分自身振り返るよい機会となりました。

○何年前に参加した時から随分変わっていて新鮮でした。さらに参加者でつくる会にしていけるとよいと思いました。



信濃教育会 大日方貞一 会長



長野県知事 阿部 守一 様



衆議院議員 井出 庸生 様

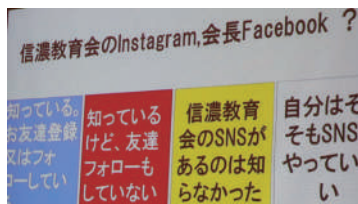
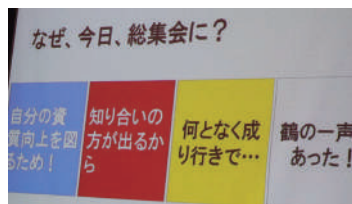


小諸市長 小泉 俊博 様

開会式後、パネルディスカッションの準備の間、若手MCにより、アイスブレイクを行いました。



今年のMCはこの2人！
荒井 陽花 教諭（川上第二小）
植木 裕大 教諭（坂の上小）



MCから参加者への質問

- ①総集会に参加したきっかけは？
- ②過去に招かれた有名な講師は？
（一旦お隣の人と出身地等交流を！）
- ③信教のSNSをフォローしている人は？

パネルディスカッション

「信州教育の明日を拓く～子ども一人一人の学びを豊かにする授業～」をテーマに、現役の先生方によるパネルディスカッションが行われました。



コーディネーター
谷内 祐樹 教授
信大教職大学院



パネリスト
若林 史也 教諭
長小学校



パネリスト
遠山 大紀 教諭
城東小学校



パネリスト
鈴木 雅美 教諭
飯島中学校



パネリスト
赤羽 雄太 教諭
小海中学校

[参加者の感想]

- パネルディスカッションでは、自分と近い年代の先生方のご活躍を拝見し、自分もっと目の前の子どものために精進しなければと身が引き締まりました。
- 若い先生方の感性から学ぶことができました。

ポスターセッション

今年は当日はポスター展示のみで、7/10,11,14の3日間に、オンラインでセッションを行いました。

講 演

講師：岩川 直樹 氏（信濃教育会教育研究所所長）

演 題：かかわりを編み直す教育



【参加者の感想】

○小諸の会場で、展示したポスターを見てくださっている先生方の様子を見ることができました。みなさんとてもいい雰囲気でご覧になっていて、オンライン開催への参加の布石にもなったと思います。

○オンラインの分、広くまた気軽に参加できるという面は利点かなと感じました。同時に、目の前で発表者の熱を感じながらお話を聞いたり会話をしたりしたいという思いもあります。両方の良さを感じさせてくれた今回のポスターセッションでした。

【参加者の感想】

○岩川先生のご講演には、毎回勇気をいただいています。何より目の前の子どもに応える教育を大事にする中で、子どもの姿を語り合える職場づくりを進めたいと思います。

○岩川先生のお話にもあったように、かわり
を編み直す教育、一人一人の子どもへの声か
けを意識して今後とも「先生」と呼ばれる自
覚をもって努力していきたいと思いました。

○岩川先生のご講演をお聞きしてこれからも自分自身探究を続けていきたいと思いました。

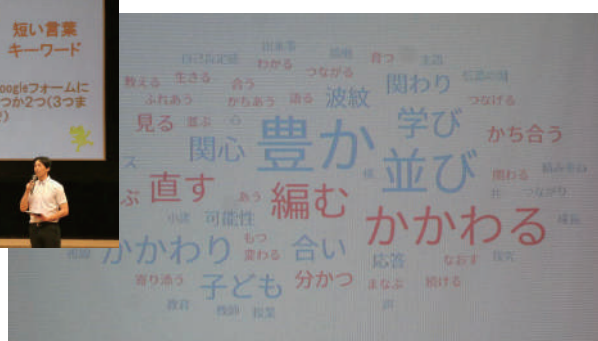
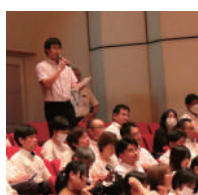
信濃教育会オーケストラ・佐久教育会合唱団による演奏



【参加者の感想】

○今年も素敵な演奏を聴くことができました。なじみのある曲目でしたので、楽しく聴けました。佐久の合唱団の皆さんの歌声も素晴らしく、元気をいただきました。

閉 会 式



【参加者の感想】

○主体的な学び、探究、小さなことから大切にする姿勢など、大きな変革の真っ只中であることが実感できた学びの多い研修となりました。

○子どもたちとのかかわりが地域、学校、社会にとって、いかに大切なことなのか、当たり前のことだと思っていましたが、改めて考えさせられました。

【信濃教育会ホームページのご案内】
第139回信濃教育会総集会佐久大会の様子は、ホームページ内「会員のページ」で動画を見ることができます。
ぜひ、ご覧ください。

つながる・広がる主体的な学び

～学び創造研究会を、点が線に、線が面になっていくきっかけに～

令和7年度第2回臨時総会が9月2日（火）に各郡市教育会から選出された代議員46名の出席のもとオンラインで開催された。議案の上程はなく、8つの協議題等について意見交換された。以下、臨時総会の概略を報告する。

大日方会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・

○終戦の日を迎えて

戦後80年を迎えた。8月15日の「終戦の日」前後の新聞各紙には、様々な立場の方の思いや主張が掲載された。その中には、信濃教育会にもかかわる満蒙開拓に触れたものも幾つかあった。改めて、先の大戦で亡くなられた方々の御霊に哀悼の意を表するとともに、世界の恒久的な平和を強く願った。

○満蒙開拓青少年義勇軍と信濃教育会

第二次大戦中、国は、国内の農村救済と満州国の治安維持を目的に満州へ人々を入植させる「満州移民施策」の一環として、満蒙開拓青少年義勇軍を満州に送出した。この国策に対して、信濃教育会は県の要請に応える形で積極的にかかわった。その結果、多くの教え子並びに教職員を満州に送出することになった。終戦直前のソ連の参戦・侵攻により、満州の地では多くの開拓団員及び子どもたちが犠牲となる。当時の様子について、太田美明元会長は雑誌『信濃教育』で次のように報告している。

「昭和20年8月9日、ソ連は日ソ不可侵条約を破って満州に侵入、略奪暴行。義勇隊員は開拓員の婦女子らとともに現地にあって、言語に絶する苦難に陥った。荒野の逃亡生活、生命の極限を生きながら飢えと寒さと病気のために、死するもの続出。悲惨極まりなく、言いようもないむごさであった。その実情は、帰還者によってつぶさに語られているところである」

想像を絶する当時の悲惨な状況に言葉を失う。改めて、戦争の惨さと恐怖に心が痛む。

信濃教育会では、こうした過去の歩みを顧みて、昭和54年から関係団体と共に訪中団を結成し、犠牲となった開拓団員並びに青少年義勇軍への慰霊と、現地の方々との親善交流を行ってきた。また、平成7年、終戦50年を迎えるにあたり、岡宮二郎元会長名で、戦争に加担したことへの反省と日中友好への決意を込め

た「鎮魂の詞」を作成した。そして、その年に訪中団として現地を訪れた依田副会長が日本人公墓の前で読み上げ、犠牲となった方々の御霊に鎮魂の祈りを捧げた。以下に、「鎮魂の詞」の一部を紹介する。

「先の大戦に国是に従い、県の要請に応じて、数多くの教え子に満州開拓青少年義勇軍をすすめた信濃教育会を代表いたしまして、この地に眠る青少年義勇軍及びその指導にあたられた教職員の御霊に対し衷心より哀悼の意を表するとともに、二度と戦争を起こさない、平和な世界を築く努力と決意をお誓い申しあげるものであります。【中略】 戦後五十年経った今、この地に「和平友好」の記念物が建立できることの意義は真に大きく、若くして散った義勇軍の皆さんの御霊が平和と友好の礎として、永劫に眠ることに対して、方正県当局の恩讐を越えたあたたかい心づかいに満腔の感謝を捧げるものであります。私はここに心から鎮魂の祈りを捧げ、中日の和平と友好、世界の平和に尽くすことをお誓い申し上げて鎮魂の詞といたします」

ここ5年程は、コロナ禍ということで、訪中団の中国派遣を控えた。この間も、信濃教育会では、状況が改善すれば早期に訪中団の派遣を再開し、満蒙開拓青少年義勇軍として中国満州に渡り、尊い命を落とされた方々への慰霊をしたいと願ってきた。今年に入り安全な渡航も可能となったため、11月2日～5日の日程で方正県を訪問し、日本人公墓の墓参り現地の方々との交流を計画している。

○信濃教育会としての今後

満蒙開拓青少年義勇軍の送出については、信教会員の中に様々な考え受け止めがあることから、これまで信濃教育会としての明確な見解を出してこなかった。しかし、私共は、「国策であったにせよ信濃教育会として積極的にかかわったことは反省せざるを得ない」として岡宮元会長名で出された「鎮魂の詞」を重く受け止めたい。こうしたことを踏まえ、信濃教育会とし

ては、異国の地で尊い命を落とされた方々への慰霊と、当時の悲惨な事実を後世に伝えていくことが、今後果たしていかなければならない役割と考えている。また、県下で取り組まれている青少年義勇軍を題材とした子どもたちの学びについても、支援して参りたい。

議 事・・・・・・・・・・・・・・・・

議案なし

協 議・・・・・・・・・・・・・・・・

- (1) 信濃教育会生涯学習センターの今後について
 - ・生涯学習センターは、歴史が刻まれた場所。教員の原点に戻れる場所。先輩が守ってきた施設であるが、施設の状況や研修形態も変化してきていることなどから、休館はいたしかたないと思う。今後のことは多くの意見、あるいは知恵を出し合って決めたい。
- (2) 令和7年度学び創造研究会の推進及び令和8年度学び創造研究会の構想
 - ・学び創造研究会は、手を挙げた若い教員の挑戦が素晴らしい。その姿に刺激を受けて他校の先生も共に学ぶなど横のつながりもできつつある。貴重な機会となっているので、継続してほしい。
- (3) 第139回信濃教育会総集会佐久大会の反省及び今後に向けて
- (4) 日本連合教育会研究大会長野大会について
- (5) 令和7年度会員アンケートの推進計画
- (6) 令和7年度図書教材研究協議会アンケートについて
- (7) 教育研究団体補助金の決定について
- (8) 信濃教育会からの感謝状贈呈について

報告・連絡・その他・・・・・・・・

- (1) 教育研究所研究発表会報告
- (2) 教育研究所募集要項
- (3) 雑誌『信濃教育』の購読状況
- (4) 第22回信州“教育の日”松本大会
- (5) 「教員助成事業」の応募状況
- (6) 教師塾S等
- (7) 郡市教育会展開催

意見交換・・・・・・・・・・・・・・・・

テーマ 「信濃教育会の事業の見直しと事業改革」について、教育会の存在意義や郡市教育会と信濃教育会の連携と分担を視点に意見交換を行った。

○グループ別協議

○全体協議

- ・教育会には、学びを見つけ、仲間を見つける意義がある。もっと知りたい、分かってほしいという思いに応える取組をしたい。総集会や日連教の研究大会も、若い先生が参加して大いに学び、他県の方とも出会っていけることを大切にしてほしい。
- ・教師塾Bのように郡市教育会と連携した取組がある。幅の広い様々な研修が整っていてありがたい。研修の機会を知らせて参加に向けて背中を押す。参加したら、そのよさを参加者が他に伝えて広げていくことを大事にしたい。
- ・信濃教育会でも郡市教育会でも教育会では、人と人との出会いとつながりが重要。誰もが参加できる、誰にも居場所があるということを大切にしたい。主体性を大切にしたい事業、リフレッシュできる研修など、今後も工夫した事業を。参加方法も参集やオンラインなど柔軟にさせていただくとありがたい。

閉会のあいさつ・・・・・・・・

- 意見交換では、「若い先生方の活躍」がキーワードだった。若い先生方に会員になっていただき、どのような取組をしていただくかが、今後の大きな課題である。
- 生涯学習センターについては、平成26年2月の信濃教育会「あり方検討委員会」の答申で、建物の維持管理費用、利用者の固定化、会員利用の減少等の課題と、建物の安曇野市への移譲を検討することや、更なる人件費削減等が指摘された。それから10年、改善に取り組んできたが、現状の形で維持管理することがいよいよ厳しくなり、苦渋の選択であるが次年度からの休館を提案した。12月の第3回臨時総会の議事となるので、郡市の意見を持ち寄り今後の方向を決定いただきたい。
- 学び創造研究会は、自主的・自律的な研修を大事にしている信濃教育会にとっては、象徴的な事業である。若い先生が率先して手を挙げて取り組んでいることや、その先生が主体的に取り組む姿に校内外の先生方がよい刺激を受け、共に学び合う関係を築いていることなどを伺った。それこそが、信濃教育会が願うところである。学び創造研究会が、点が線に、線が面になっていくきっかけになればと思う。子どもを真ん中にした学び創造の取組が、各校、各地域で発展するように、代議員の皆さまにもご協力いただきたい。そのためにも、学び創造研究会への参加の後押しをお願いしたい。

第76回日本連合教育会研究大会 茨城大会 報告

大会主題 持続可能な社会を切り拓き、未来に誇れる日本人の育成
～すべての子どもたちの可能性を引き出す学びの充実～

今年度の日本連合教育会研究大会は上記の大会主題のもと、茨城県水戸市で8月21日（木）・22日（金）に開催されました。22日には全体会、記念講演会、10分科会が開催され、信濃教育会からは45名が参加し、他県の先生方と教育について語り、長野県の先生方同士で交流を深めました。



【提案発表する久保田英子先生】

日本連合教育会研究大会のよさは・・・

【その1】：著名な方のお話が聞ける

茨城大会では前常磐大学学長 富田 敬子先生に「海外から見た日本の学校教育～私たちは未来社会の担い手を育てているか～」と題して講演をしていただきました。大会主題と関連したお話で、世界の中で見た「日本人の育成」という観点で、示唆に富むお話でした。

参加者の感想

世界の様々な国の人と一緒に仕事をされてきた富田敬子さんのお話は、グローバルな視点と日本人の視点の両面から物事を捉えており、未来を生きていく子どもたちの教育に携わる私たちに、教育観、授業観、子ども観等を考える機会を与えてくれる内容であったと思います。

【その2】：県外の先生方と意見交換ができる

茨城大会では「教育課程」「学習指導」「外国語教育」「道德教育」「生徒指導」「特別支援教育」「人権教育」「幼児教育」「青年教師の会」「学校・家庭・地域社会の連携」の10分科会で討議を深めました。「特別支援教育」分科会では、小布施町立小布施中学校の久保田英子先生に信濃教育会の代表として提案発表をしていただきました。

参加者の感想

ついつい自分の身の周りのことに精一杯になってしまいがちですが、こういった機会でも自分と同じように悩み頑張っている先生方がいたり、新たな取り組みをたくさんしている先生方がいたりするのが分かり、こうした全国規模での大会に参加したことが初めてだったので、とても勉強になりました。

来年はいよいよ第77回長野大会！！

◎ 日本連合教育会研究大会長野大会 ◎

1. 大会主題 悠久の山河の如く 新たな時代を力強く切り拓く 日本人の育成
2. 期 日 令和8年8月20日（木）・21日（金）
3. 記念講演 講師 諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實 氏
4. 会 場 (1) 理事会・青年教師の会会場 ホテル国際21・・・8月20日（木）
(2) 全体会場 ホクト文化ホール・・・8月21日（金）午前
(3) 分科会会場 信州大学工学部 他・・・8月21日（金）午後
5. 分 科 会 10分科会
「教育課程」「学習指導」「道德教育」「人権教育」「特別支援教育」
「健康・安全教育」「生徒指導」「幼児教育」「地域と共に創る防災教育」
「教育会のあり方」

あなたの参加を
お待ちしております！！

教育研究団体と信濃教育会との懇談会（7/9）

信濃教育会では、教育研究団体への補助事業を行っている。先生方の自発的に学び続ける気風、新たなチャレンジを支援したいと願い、新しいことに挑戦しようとする研究・活動に対する特別支援金も取り入れている。

7月9日（水）に、授業公開等をしている20団体の代表者にお集りいただいた。大日方会長の「教育会や同好会は、長野県の教員が自主的に学ぶ貴重な場。同好会には、仲間と気軽に話せる温かさがある。児童生徒の健やかな成長のために、それぞれの団体が活性化することを願う。また、今年度は教育課程研究協議会見直しの年度なので、授業を見て学ぶ機会がどうなるか心配する声も届いていることについても協議願いたい」との挨拶を受けて懇談した。その中で、信濃教育会の「学び創造研究会」、各団体の県大会、さらには信州大学附属学校園の公開研究会をまとめて紹介するポスターを作成し、学校や先生方に公開授業を案内することとなった。授業を参観して、児童生徒の姿から学習指導や教育課程について考えるために、他の学校に足を運びきっかけになればと願う。

令和7年度 教育研究団体補助金

No.	補助金申請教育研究団体名	補助金額
1	信州社会科教育研究会	95,000円
2	長野県学校体育研究会	90,000円
3	信州理科教育研究会	90,000円
4	長野県算数数学教育研究会	90,000円
5	長野県音楽教育学会	65,000円
6	長野県技術・家庭科教育研究会	60,000円
7	長野県国語教育学会	40,000円
8	長野県学校保健会養護教諭部会	70,000円
9	長野県美術教育研究会	45,000円
10	長野県道徳教育学会	35,000円
11	長野県英語教育研究会	35,000円
12	生活に根ざす信州総合・生活科教育研究会	45,000円
13	長野県書写書道教育研究会	30,000円
14	長野県家庭科教育研究会	20,000円
15	長野県国際教育研究協議会	45,000円
16	多様性を活かす学級・学校づくり同好会	50,000円
17	信州大学教育学部附属幼・小・中・特支6校園学習指導研究会	160,000円
18	長野県図書館協会小中学校図書館部会	60,000円
19	長野県視覚・放送・情報教育研究会	40,000円
20	長野県統計教育研究協議会	30,000円
21	長野県特別支援教育研究連盟	25,000円
22	長野県学校保健会 小・中・特別支援学校保健主事部会	20,000円
23	長野県へき地教育振興協議会	20,000円
合 計		1,260,000円

第29回「教育研究論文・教育実践賞」募集のお知らせ



詳細はHP
をご覧ください！

作品内容	1 目標達成や課題解決のための自主的、継続的な研究や実践をまとめたもの 2 指導や支援による子どもの変容や成長をまとめたもの 3 会員にとって学びがあり研究や実践の参考になるもの		
部 門	個人の部 / グループの部（2名以上）		
応募資格	信濃教育会会員であること		
表 彰	特 選：賞金10万円・楯・賞状 準特選：賞金 8 万円・楯・賞状 入 選：賞金 3 万円・賞状 佳 作：賞金 1 万円 奨励賞：図書カード（2千円分）		
提出先／ 締切り	小・中・義務教育・特別支援学校 高校・大学	→ 各教育会事務局 → 信濃教育会	令和8年1月9日（金）必着 令和8年1月16日（金）必着

かしわくんと一緒に
**岩川先生へ質問
してみよう！**

教育研究所所長の岩川先生に、聞いてみたい・知りたい
ことを『かしわくん』を通じて質問してみよう！

気軽に日頃の悩みや、考え事...等の質問が出来ます。
岩川先生の意見を聞いてみたい方は、どんどんご質問ください！

↓よりご質問下さい。
HPからもご質問可能です。



質問の回答は
信濃教育会HP【会員のページ】にて
動画形式でご覧いただけます！



11・12月の研修ガイド

11月6日（木）

- オートムセミナー ◎長野上水内教育会館 ◇「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の構想・評価」榎本哲士（信州大学教育学部講師）☆長野上水内教育会 026-226-2458

11月24日（月）

- 大人の社会見学バスツアー ◎ヤッホーブルーイング御代田醸造所 ◇講演・雑談朝礼・オフィス、工場見学 ☆長野上水内教育会 026-226-2458

11月29日（土）

- 哲学講演会 ◎上伊那教育会館 ◇秋富克哉（京都工芸繊維大学教授）☆上伊那教育会 0265-72-3416
- 苦野一徳先生講演会 ◎長野上水内教育会館（オンライン）◇「体験してみよう！本質観取～よい授業とは？～」苦野一徳（熊本大学教育学部教授）☆長野上水内教育会 026-226-2458

12月20日（土）

- 諏訪湖水鳥観察会 ◎岡谷市横河川河口周辺 ◇水鳥・冬鳥の観察 ☆諏訪教育会 0266-52-0213

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等（講師名敬称略） ☆連絡先



日本とドイツ ふたつの わたしのふるさと “Meine Heimat”

デュッセルドルフ日本人学校 勝野 里穂

デュッセルドルフは、ドイツ西部のノ르트ライン＝ヴェストファーレン（NRW）州の州都です。経済や産業が発展し、日本企業も多く進出しています。街の中心には日本料理店や書店が並ぶインマーマン通りがあり、毎年「Japan Tag（日本デー）」には国内外から約60万人が訪れます。欧州でも有数の日本人コミュニティを有し、デュッセルドルフ日本人学校には小学部・中学部あわせて400名を超える子どもたちが通っています。日本のカリキュラムに加えて、ドイツ語とドイツの文化理解にも取り組んでいます。

私はこの環境を生かし、地域を教材にした学習を進めてきました。小4社会科では自分の都道府県を学びますが、本校の子どもたちは日本各地や世界中から集まっているため共通の地域がありません。さらに、保護者の都合で転居を繰り返している子どもや、日本に一度も住んだことがない子どももいて、自分のルーツやふるさとが曖昧な場合もあります。そこで、縁あってデュッセルドルフ、NRW 州に暮らしている今、この地を「Meine Heimat（わたしのふるさと）」にとらえてほしいという願いから、地域の自然・産業・文化を学んでいく計画を立てました。

教材の中心は、1980年代に本校の教員や日本人コミュニティによって作成され、その後も改訂が続けられてきた副読本『私たちのデュッセルドルフ』です。浄水施設や清掃工場を見学し生活を支える仕組みを学びました。またゾーリングゲン市で刃物工場で伝統工芸を、紅茶工場（TEE KANNE）では産業の発展を体験的に学びました。こうした学びは、子どもたちに地域をぐっと身近に感じさせてくれました。また、詩人ハイネや音楽家シューマンなど文化に貢献した人物の足跡を訪ね、作品に親しみました。ドイツ語科と連携し、カーニバルなどの伝統行事を学び、社会科と語学を結びつけることができました。

まとめとして行った「ふるさと PR ポスター」では、日本とドイツの両方をふるさととして紹介する子どもがたくさんいました。子どもたちにとって、地域を学ぶことは、この地を「自分のふるさと」と感じるきっかけとなりました。

校歌の一節に「日本の友とドイツの友をつなぐ歌声」とありますが、まさにその言葉のように、子どもたちは自然に二つの国をつなぎながら日々を過ごしています。ドイツでの経験を通じて育った関心や愛着が、将来の大きな財産になると信じています。これからも地域に根ざした学びを大切にしながら、子どもたちと共に成長していきたいと思っています。



アルトシュタット（旧市街）見学



浄水場見学の様子



ゾーリングゲン はさみ工場見学



NRW 州についての劇を発表する様子
学習発表会

第22回 信州“教育の日” 松本大会 開催のご案内

「共に学び共に育つ環境づくりをめざして」 主催 第22回 信州“教育の日” 実行委員会

第22回 信州“教育の日”、今年度は松本市で開催されます。4つの分科会を設け大学生や高校生を含め様々な立場で子どもたちの教育に関わっていただいている8つの団体の皆様にご発表いただき、参加者とともにこれからの信州教育について考え合います。詳細は二次元コードより信濃教育会 HP 内のちらし等をご覧ください。参加は無料です。参加希望の方は信濃教育会 HP 内の Google フォームよりお申込み下さい。(10月末まで)

◇開催日 令和7年11月15日(土) 12:40~15:50

◇共催 松本市 松本市教育委員会

◇開催場所 松本市波田文化センター

◇後援 長野県議会、長野県教育委員会ほか県内136団体

◇プログラムの概要 ●開会セレモニー ●講演 ●分科会A ●分科会B ●閉会セレモニー

<分科会内容>

■地域と学校を繋ぐコーディネーターとして地域の課題とこれからの学校を考える ■エクセラン高校の介護魅力発信イベント「あつまれ!フクシカの森」 ■“楽しく、ユニークな催しを開催!地区内の世代の絆を広げる” 庄内盛々会 ■地域や企業と協力して地域課題と向き合う 松本県ヶ丘高校 ■大学生ボランティアと地域でできること ■漫画やアニメで地域の歴史を学ぶ ■松本大学地域づくり考房『ゆめ』の地域づくり活動の取り組み ■日本の伝統芸能を子どもたちと学ぶ。楽しむ。

参加の皆様へ
駐車場のご案内も
HP内にあります
ご確認ください



▲昨年度山ノ内大会の様子



信濃教育

予告



我が同好会の取組

No. 2

指導者
大月 順子(芝沢小学校)

100年館の絵

令和6年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「大すぎがいっぱいのぼうし」

小原 心帆(芝沢小二年)

子どもたちは、国語の『ミリーのすてきなぼうし』の学習の中で、「自分も欲しい帽子がある!」と言い思い思いに帽子を描き始めました。心帆さんは、五つの大好きなものを五階建ての帽子に表現しました。一階は、どの動物も仲良く暮らせる動物園。二階は、自分の将来の夢のケーキ屋さん。三階は、海の生き物が大好きな家族で、よく行く水族館。四階は、お母さんが連れて行ってくれる動物の形のパンが買

えるパン屋さん。そして五階は、大好きな絵本の読みかけをしているお部屋。自分の大好きなものを細かなタッチでどんどん描きこみました。「この帽子、すごく楽しそうで素敵だね。どんな色で仕上げていくのかワクワクしちゃうね」と、声をかけると、夢中になって色を塗りこんでいました。作品を描き終えると、「大好きなものが上手にいっぱい描けて幸せ!」と嬉しそうに話してくれました。

信濃教育博物館所蔵

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。



公益社団法人
信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町 1098 TEL 026(232)2470
URL <https://shinkyo.or.jp> ✉ shinkyo@shinkyo.or.jp
編集兼発行人/大日方貞一

